

Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

2024
SEPTEMBER

No. 138

Sun.15th September
Niigata Subscription Concert

No. 724

Sat.21st September
Subscription Concert

No. 141

Sat.28th September
Tokyo Opera City Series

9



Jonathan Nott, *Music Director*



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

音楽監督	ジョナサン・ノット
桂冠指揮者	秋山和慶
	ユベール・スダーン
正指揮者	原田慶太楼
名誉客演指揮者	大友直人
永久名誉指揮者	アルヴィド・ヤンソンス ◆
	上田 仁 ◆
	遠山信二 ◆

名誉コンサートマスター	大谷康子
第1コンサートマスター	小林杏成
	グレブ・ニキティン
コンサートマスター	田尻 順

会長	澤田秀雄
理事長	岡崎哲也
副理事長	平澤 創
	依田 巽
専務理事	廣岡克隆
理事	阿部武彦 辻 敏
	池辺晋一郎 永山 治
	伊藤美樹 夏野 剛
	大橋 博 南部靖之
	コンジュンコ 福川伸次
	菅谷貴子 増岡聡一郎
	竹中平蔵 森 京子

監 事	寺西基之
	渡邊芳樹
評議員長	金山茂人
最高顧問	梅沢一彦 星 久人
評議員	鷗海量明 山添 茂
	片山泰輔 芳野まい
特別顧問	加藤英輔
	飯島延浩
	草壁悟朗
	福田紀彦

1st Violins

- 木村正貴
- 堀内幸子
- 森岡ゆりあ
- 小川敦子
- 小山あずさ
- 立岡百合恵
- 土屋杏子
- 中村楓子
- 水谷有里
- 吉川万理

2nd Violins

- 清水泰明
- 服部亜矢子
- 加藤まな
- 福留史絵
- 河根あずさ
- 鈴木浩司
- 竹田詩織
- 辻田薫り
- 阿部真弓
- 坂井みどり
- 塩谷しずか
- 渡辺裕子

Violas

- 青木篤子
- 武生直子
- 西村真紀
- 多井千洋
- 山廣みほ
- 小西応興
- 鈴木まり奈
- 永井聖乃
- 新井瑞穂 *
- 金田澁司 *

Cellos

- ☆伊藤文嗣
- 巻沼 樹
- 川井真由美
- 内山剛博
- 鷲江慶行 ●
- 樋口泰世
- 福岡茉莉子

Double Basses

- 助川 龍
- コーディネーターズチーム
- 北村一平
- 久松ちず
- 安田修平
- 渡邊淳子

Flutes

- 相澤政宏
- 竹山 愛

Flutes & Piccolos

- 高野成之
- 濱崎麻里子

Oboes

- 荒 絵理子
- 浦脇健太
- 荒木良太 *

Oboe&English horn

- 最上峰行

Clarinets

- エマニュエル・ヌヴー
- 吉野亜希菜
- 近藤千花子
- 小林利彰

Bassoons

- 福士マリ子
- 福井 蔵
- 坂井由佳
- 前関祐紀

Horns

- 上間善之
- 加藤智浩
- 溝根伸吉
- 臼井有琳 *

Trumpets

- 澤田真人
- 野沢岳史 ●
- 松山 萌
- ローリー デイラン *

Trombones

- 大馬道人
- 塚家心輔
- 住川佳祐

Bass Trombone

- 藤井良太

Tuba

- 近藤陽一

Timpani & Percussions

- 清水 太
- 山村雄大
- 武山芳史
- 綱川淳美
- 新澤義美

Librarians

- 林 知也
- 加藤幸子

Stage Managers

- 西岡理佐
- 山本 聡

楽団員

- 井伊 準 ◆

楽団長

- 廣岡克隆

編成局シニアディレクター

- 藤原 真

パーソネルマネージャー

- 謝名元 民

楽団委員

- 北村一平 (議長)
- 多井千洋 (書記)
- 相澤政宏
- 浦脇健太
- 鈴木浩司
- 福留史絵

事務局長

- 辻 敏

事務局

- 尾木貴雄
- 堀川純子
- 市川萌都
- 伊藤瑛海
- 榎 日向
- 小川博司
- 桐原美砂
- 高瀬 緑
- 長久保宏太郎
- 山田道子
- 三橋真琴 *

名誉団友

- 深江泰輔 ◆
- 三木高雄 ◆

団 友

天野佳和	佐々木真
新井 汎	藤 崎
菅野明基	菅野明基
杉浦直基	杉浦直基
池田 肇	池田 肇
石川陽依世	石川陽依世
今村和弘	今村和弘
岩澤淳子	岩澤淳子
上原正二	上原正二
上原規照	上原規照
上原大莉	上原大莉
内田彬雄	内田彬雄
内田由利子	内田由利子
宇都 美	宇都 美
梅田 孝	梅田 孝
大隈雅人	大隈雅人
大塚正裕	大塚正裕
大慈康男	大慈康男
野村真澄	野村真澄
馬場隆弘	馬場隆弘
小川さえ子	小川さえ子
荻野 晃	荻野 晃
奥田昌史	奥田昌史
音川 健二	音川 健二
加藤谷直美	加藤谷直美
笠原 誠	笠原 誠
甲藤さち	甲藤さち
加藤信吾	加藤信吾
金澤 茂	金澤 茂
久保田一穂	久保田一穂
塚谷仁士	塚谷仁士
黄原崇司	黄原崇司
小林照雄	小林照雄
小林亮子	小林亮子
阪本正彦	阪本正彦
佐川聖二	佐川聖二

【ハープ寄贈：環境ステーション株式会社】

☆○□首席奏者 □客演首席奏者 ●首席奏者 ○フォアシュペラー ●インスペクター
■本部長 □シニア・ディレクター * 研究員・準事務局員 ◆ 故人

演奏会でのお願い

Concert Manner Guide



チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

チケットに記載されている座席番号にのみ有効です。座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.



開演前に電子機器の 電源はOFFに

マナーモードにしても振動する音が響きますので、電源は必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and all other noise-emitting electronic devices before the performance begins.



補聴器の確認を

ご使用のお客様は、きちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check that your device is suitably set before the performance begins.



周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を乗り出している鑑賞や、つばの広い/高さのある帽子は脱いでご鑑賞ください。リズムをとる行為もおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way which could disturb or obstruct the view of those seated near you.



開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。

You will not be permitted to enter the concert hall during a performance.



演奏中の飲食は ご遠慮ください

のど飴等の包み紙を開ける音は、場内に響きますのでご遠慮下さい。

Refrain from eating and drinking during the performance.



演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご配慮下さい。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内に響きます。

Please be silent during the performance.



咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from any coughing or sneezing.



曲の余韻も 演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance. Please hold your applause or shouting your appreciation until the actual end of the performance.



カーテンコールを除いて、ホール内での録音・録画・写真撮影は禁止です

終演後のカーテンコールの撮影は、自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

※前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません。

※スマートフォン、携帯電話以外のカメラでの撮影、自撮り棒の使用、フラッシュの使用、目線より高い位置での撮影はご遠慮ください。

Photography, filming and recording are prohibited, but it is permitted to film the curtain call after the concert. Photography is not permitted at the end of the first half or during encore performances. Please refrain from taking pictures with cameras other than smartphones and mobile phones, using selfie sticks, using flash, and taking pictures at eye level or higher.

9/15 SUN.

新潟定期演奏会 第138回

2024年9月15日(日) 17:00 リューとぴあ 新潟市民芸術文化会館 コンサートホール

Niigata Subscription Concert No.138

Sun. 15th. September 2024, 17:00 Ryutopia Concert Hall

アンドレアス・オッテンザマー [指揮]

中野りな [ヴァイオリン]

小林 孝成 [コンサートマスター]

Andreas OTTENSAMER, Conductor

NAKANO Lina, Violin

KOBAYASHI Issey, Concertmaster

ストラヴィンスキー:

弦楽のための協奏曲 二調 (15')

I. ヴィヴァーチェ

II. アリオソ: アンダンティーノ

III. ロンド: アレグロ

I. STRAVINSKY:

Concerto for Strings in D (15')

I. Vivace

II. Arioso: Andantino

III. Rondo: Allegro

モーツァルト: ヴァイオリン協奏曲 第5番

イ長調 K.219「トルコ風」(30')

I. アレグロ・アペルト

II. アダージョ

III. ロンドー: テンポ・ディ・メヌエット

休憩(20')

W.A. MOZART: Violin Concerto No.5

in A major K.219 (30')

I. Allegro aperto

II. Adagio

III. Rondeau: Tempo di minuetto

Intermission(20')

チャイコフスキー: 交響曲 第1番 ト短調

「冬の日の幻想」op.13 (45')

I. 「冬の旅の幻想」

II. 「陰気な土地、霧の土地」

III. スケルツォ

IV. フィナーレ

P. TCHAIKOVSKY: Symphony No.1

in G minor op.13 (45')

I. Allegro tranquillo

II. Adagio cantabile ma non tanto

III. Scherzo. Allegro scherzando giocoso

IV. Finale

●主催/公益財団法人新潟市芸術文化振興財団、BSN新潟放送

●助成/文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)|独立行政法人日本芸術文化振興会

※新潟定期演奏会は新潟市からの補助金の交付を受けて実施しています。

楽曲解説はP.6をご覧ください



RYUTOPIA



新潟市

The City of Niigata

9/15 SUN.



© Dan Carabas

Andreas OTTENSAMER

Conductor

アンドレアス・
オッテンザマー
[指揮]

クラリネット奏者、芸術監督、指揮者として、聴衆や批評家を魅了してやまない。

現代を代表するクラリネット奏者として、ベルリン・フィル、ウィーン・フィルなどのオーケストラと、マリス・ヤンソンス、サイモン・ラトルなど著名な指揮と共に、世界のコンサートホールで共演を重ねている。また、ザルツブルク音楽祭などに定期的にゲスト・アーティストとして出演。2022年春に東京交響楽団と愛知室内オーケストラを指揮して日本で指揮者デビュー、2024年にはNHK交響楽団へのデビュー、東京交響楽団、愛知室内管弦楽団との再共演を果たす。

1989年ウィーン生まれ。10歳でウィーン国立音楽大学にてチェロを学び、2003年にクラリネットに転向。2009年、ハーバード大学在学中にベルリン・フィル・オーケストラ・アカデミーの奨学生となり、2011年3月よりベルリン・フィル首席クラリネット奏者を務めている。ニコラス・パスケ教授のもとで指揮を学ぶ。2021年グシュタード音楽祭指揮者アカデミーにてネーメ・ヤルヴィ賞受賞。

Andreas Ottensamer has captured audiences and critics alike with his distinct musicianship and versatility as clarinetist, artistic director and conductor. In the 2023-2024 season, Ottensamer will give conducting debuts with the NHK Symphony Orchestra in a program entirely dedicated to Johannes Brahms. Ottensamer will also return to conduct the Tokyo Symphony Orchestra, having made his Asian conducting debut there in 2023. Ottensamer is artistic director of the Bürgenstock Festival in Switzerland and the Artström Festival at the Stienitz-Lake near Berlin, Germany. Ottensamer was born in 1989 in Vienna. He comes from an Austro-Hungarian family of musicians and was drawn to music early. At the age of ten he began studying cello at the University of Music and Performing Arts Vienna, then changed to the clarinet in 2003. In 2009 he interrupted his Harvard undergraduate studies to become a scholar of the Orchestra Academy of the Berliner Philharmoniker. Ottensamer studied conducting with Professor Nicolas Pasquet (Weimar). Ottensamer has held the position of principal clarinetist with the Berlin Philharmonic Orchestra since March 2011.



© Dan Carabas

NAKANO Lina

Violin

中野りな
[ヴァイオリン]

2021年第90回日本音楽コンクール優勝。2022年第8回仙台国際音楽コンクールにおいて、史上最年少の17歳で優勝、及び聴衆賞を受賞し大きな注目を浴びる。以降、主要オーケストラとの共演やリサイタル等、演奏活動をはじめ、現在、最も将来が期待される若手ヴァイオリニストとして高い評価を得ている。

3歳よりヴァイオリンを始め、桐朋学園大学音楽学部附属子供のための音楽教室にて森川ちひろに学ぶ。2015年よりザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学夏期国際音楽アカデミーにてポール・ロチェックの指導を受ける。桐朋女子高等学校音楽科を卒業後、現在桐朋学園大学「ソリスト・ディプロマ・コース」に全額免除特待生として在学し、辰巳明子に師事。また、ウィーン市立芸術大学ではカルヴァイ・グリボルに師事し研鑽を積んだ。ロームミュージックファンデーション2023年度及び2024年度奨学生。

使用楽器は一般財団法人ITOHより貸与されている1716年製のアントニオ・ストラディバリウス。

NAKANO Lina was born in Tokyo in 2004. She started playing the violin at the age of 3, and since 2015, Lina has learned under Prof. Paul Roczek's tutelage at the Mozarteum International Summer Academy in Salzburg on a regular basis. She is currently enrolled in the soloist diploma course at Toho Gakuen School of Music, and studies under Prof. TATSUMI Akiko. She also studied with Prof. Dalibor Karvay at the Music and Arts University of the City of Vienna. In addition, she is a recipient of the ROHM Music Foundation 2023 and 2024.

At the 8th Sendai International Music Competition in 2022, at age 17, Lina made history by becoming the youngest first prize winner of the event to date, and in addition was awarded the Audience Prize for which she received much media attention.

She plays a 1716 Stradivarius on loan from the ITOH Foundation.

9/15 SUN.

イーゴリ・ストラヴィンスキー (1882 ~ 1971)

弦楽のための協奏曲 二調

スイスの指揮者で富豪のパウル・ザッハーが同時代の作曲家たちに作曲委嘱したことでさまざまな作品が生まれたが、「弦楽のための協奏曲 二調」もそのひとつ。ザッハーが創設したバーゼル室内管弦楽団創立20周年のための作品で、「バーゼル協奏曲」とも呼ばれる。

1939年にアメリカに渡り、1945年にアメリカ市民権を得たストラヴィンスキーは、アメリカでの著作権を得るために過去作品の改訂に取り掛かるが、ザッハーから依頼が来たのはちょうどその作業を始めたときだった。スケジュールが多忙だったが最終的に引き受け、ハリウッドの自宅でバレエ音楽「ペトルーシュカ」の改訂と同時進行して作曲された。

作品の規模についてストラヴィンスキーは手紙の中で「小ぶりのブランデンブルク協奏曲」と語っているが、この例えが表すように合奏協奏曲的な作品で、弦楽合奏が時にソロと合奏に分かれたり、そのソロも1人ではなく複数人だったりと自在に変化していく。音を切り離す「スタッカート」だけでなく、弓をはずませて弾く「スピッカート」も明確に指示され、さらに弦を指ではじく「ピツィカート」の響きと共に、ストラヴィンスキーならではのリズムがはじける全3楽章。楽章間は休みなく演奏される。

第1楽章 ヴィヴァーチェ 高弦の「ファ#」に低弦が「ファ」で応え、長調か短調かを決める要の音が同時に鳴る「二調」の響きで開始。ヴァイオラ・ソロの軽快な動きに導かれたのち主部となり、リズムカルな音楽が繰り広げられる。続く「モデラート」では滑らかに和音を奏でていき、その後アクセントが強烈な「コン・モート」を経て主部に戻る。

第2楽章 アリオソ 美しいメロディによる緩徐楽章。なお楽章最初と最後では、メロディの「ラ-シb」が第1ヴァイオリンとチェロで1音ごとに音高が交差しており、文字通り“ひねり”が効いたメロディとなっている。

第3楽章 ロンド 歯切れ良い16分音符と、「カンタービレ (歌うように)」「グラツィオーソ (優美に)」「エスプレッシヴォ (表情豊かに)」と指示されたメロディとで動きを対比させながら、躍動感に満ちた音楽を展開していく。

神原律子 Text by SAKAKIBARA Ritsuko

作曲: 1946年

初演: 1947年1月27日 バーゼル パウル・ザッハー指揮 バーゼル室内管弦楽団

編成: 弦5部

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756～1791)

ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ長調 K.219「トルコ風」

モーツァルトが独奏ヴァイオリンと管弦楽のための作品を手掛けたのはほぼすべてがザルツブルク時代のことである。3楽章構成の5曲の協奏曲のうち、1773年成立の可能性が指摘される第1番変ロ長調K.207以外は確実に1775年の作。いずれも具体的な作曲目的は不明だが、ザルツブルク宮廷等の演奏会用と考えるのが妥当だろう。自筆総譜に75年後半の日付をもつ第3番ト長調K.216(9月12日)、第4番二長調K.218(10月)、第5番イ長調K.219(12月20日)は、ヴァイオリンの下3線の開放弦と一致する5度間隔の調が選ばれていることから、3曲1セットでの出版も視野に入れていたと指摘する研究者もいる。

《トルコ風》というニックネームは第3楽章の第3エピソードが当時流行の「トルコ風音楽」を模している点に由来する。だが、実際はトルコを含む東方風な音楽の模倣と言って良く、具体的にはオスマン・トルコの軍楽隊の勇ましい行進曲の性格、あるいは東欧風の民俗的なヴァイオリン演奏の様式を取り入れている。

第1楽章(4/4のアレグロ・アペルト)はまさに開放的＝アペルトな性格を基調とするが、ソロの開始は斬新で、微風のような管弦楽に乗ったソロのカンタービレ(4/4のアダージョ)である。続いて主要主題が管弦楽から再度現れるが、ソロが華やかな対旋律で絡むというのも創意に富んでいる。**第2楽章**(2/4のアダージョ、ホ長調)は第1楽章で予示されたカンタービレの世界。その美しさは、しかし明暗の絶妙で繊細なコントラストによって深みを与えられている。ソロと管弦楽の緊密な対話は第1楽章にも劣らない。**第3楽章**は典雅なテンポ・ディ・メヌエット(3/4)のロンドーで、全体は「主要主題⇒第1エピソード(ホ長調)⇒主要主題⇒第2エピソード(嬰へ短調)⇒主要主題⇒第3エピソード(イ短調)⇒主要主題⇒第1エピソード(ホ長調)⇒主要主題」という構成。トルコ風音楽による第3エピソードについては先述の通りだが、主要主題が再現する度に変奏が加えられていく点も特筆に値する。

なお、第1楽章と第2楽章にはカデンツァの指定があるが、作曲家自身の作は現存しない。また、第1楽章におけるアダージョ部分の最後、第3楽章における各エピソードの最後にはアインガング(小規模なカデンツァ)が挿入されることがあるが、これについても作曲者の作は現存しない。

安田和信 Text by YASUDA Kazunobu

作曲: 1775年12月20日、ザルツブルク(自筆総譜)

初演: 不明。上記日付から遠からぬ日でザルツブルク宮廷等での演奏会にて。

編成: ヴァイオリン独奏、オーボエ2、ホルン2、弦5部

9/15 SUN.

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840～1893)

交響曲 第1番 ト短調 op.13 「冬の日の幻想」

法務省の役人から転身し、22歳でペテルブルク音楽院に第1期生として入学したチャイコフスキーは、25歳の1865年に音楽院を卒業。翌66年、新設のモスクワ音楽院で音楽理論を教えることになるが、この年に作曲したのが交響曲第1番である。新進の作曲家として取り組んだ最初の大作だが、すんなりとは完成しなかった。まず、作曲途中で師匠A. ルビンシテインとザレンバに楽譜を見せると酷評され、書き上げた後も師匠から演奏を許されたのは第2・3楽章のみ。それゆえ全曲初演されたのは1868年になってのことだった。このとき作品に手を加えたが、1875年に楽譜を出版する際にもさらに手直した。この楽譜を用いて最初に演奏されたのは1883年。交響曲第4番初演から5年後に、ようやく交響曲第1番の決定稿が披露された。

「冬の日の幻想」という題、そして第1・2楽章だけにつけられた題について、チャイコフスキーの説明は残念ながら残されていないが、まさに情景が思い浮かぶような音楽が繰り広げられる。第2・3楽章で音楽院時代の作品を引用し、第4楽章では民謡を引用しているのが特徴的な、若きチャイコフスキーの交響曲作曲家としての記念すべき第1作である。

第1楽章 木管楽器から始まる滑らかな主題が、夢にうなされるような半音階と呼応しながら力強く進む。その後クラリネットによる優美な第2主題と共に展開していく。

第2楽章 弱音器をつけた弦楽合奏で始まるが、このメロディは序曲「雷雨」(1864年)の引用。その後、オーボエが民謡風の主題を奏で、静かで情熱的な音楽が展開する。

第3楽章 ピアノ・ソナタop.80(1865年)第3楽章冒頭を引用したリズムカルな主題によるスケルツォ。優美な中間部をはさんで、軽やかな音楽が繰り広げられる。

第4楽章 物憂げな序奏で始まるが、これは民謡「小さな花の種をまく、若い娘よ」(民謡では長調)を用いたもので、この民謡を中心に展開するフィナーレ楽章。アレグロ・マエストロの華々しい主部では、第2主題として民謡が再登場。対位法的に繰り広げる展開部を経て、序奏が回帰してコーダとなり、民謡が長調となって輝かしいフィナーレとなる。

榊原律子 Text by SAKAKIBARA Ritsuko

作曲:1866年

初演:1868年2月15日モスクワ、N.ルビンシテイン指揮(全曲初演)
1883年12月1日モスクワ、エルトマンズデルファー指揮(出版譜)

編成:ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、パステューバ1、ティンパニ、シンバル、大太鼓、弦5部

9/21 SAT.

第724回 定期演奏会 《秋山和慶指揮者生活60周年記念》

2024年9月21日(土) 18:00 サントリーホール

Subscription Concert No.724 《AKIYAMA Kazuyoshi 60th Anniversary of Debut》

Sat. 21st. September 2024, 18:00 Suntory Hall

秋山和慶 [指揮]
 竹澤恭子 [ヴァイオリン]
 グレブ・ニキティン [コンサートマスター]

AKIYAMA Kazuyoshi, Conductor
 TAKEZAWA Kyoko, Violin
 Gleb NIKITIN, Concertmaster

ベルク: ヴァイオリン協奏曲
 「ある天使の思い出に」(22')

I. アンダンテ - アレグレット
 II. アレグロ - アダージョ

休憩(20')

ブルックナー: 交響曲 第4番 変ホ長調
 「ロマンティック」WAB 104
 (1878/80年稿/ノヴァーク版)(70')

I. 動きを持って、速すぎず
 II. アンダンテ・クワジ・アレグレット
 III. スケルツォ〜トリオ
 IV. フィナーレ: 動きを持って、しかし速すぎず

A. BERG: Violin Concerto
 “Dem Andenken eines Engels” (22')

I. Andante - Allegretto
 II. Allegro - Adagio

Intermission(20')

A. BRUCKNER: Symphony No.4 in
 E-flat major “Romantic” WAB 104
 (1878/80 edition/L.Nowak) (70')

I. Bewegt, nicht zu schnell
 II. Andante quasi allegretto
 III. Scherzo. Bewegt-trio
 IV. Finale. Bewegt, nicht zu schnell

- 主催/公益財団法人東京交響楽団
- 助成/文化庁文化芸術振興費補助金舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)| 独立行政法人日本芸術文化振興会

楽曲解説はP.12をご覧ください



文化庁
 Cultural Agency of Japan

9/21 SAT.



© 飯田力丸

AKIYAMA Kazuyoshi

Conductor

秋山和慶
[指揮]

 Conductor Laureate
 桂冠指揮者

齋藤秀雄のもとで指揮法を修め、1964年に東京交響楽団を指揮してデビューののち同団の音楽監督・常任指揮者を40年間にわたり務める。その間アメリカ響音楽監督、バンクーバー響音楽監督（現在桂冠指揮者）、シラキユース響音楽監督、大フィル首席指揮者、札幌響首席指揮者、広響首席指揮者、九響首席指揮者などを歴任。

これまでにサントリー音楽賞、芸術選奨文部大臣賞、大阪芸術賞、毎日芸術賞、川崎市文化賞などを受賞。2001年紫綬褒章、2011年旭日小綬章を受章。2014年度文化功労者に選出。現在、中部フィル芸術監督・首席指揮者、センチュリー響ミュージックアドバイザー、岡山フィルミュージックアドバイザー、東響桂冠指揮者、広響終身名誉指揮者、九響桂冠指揮者、オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ芸術顧問、洗足学園音楽大学芸術監督・特別教授、京都市立芸術大学客員教授など多くの任を務めている。

2024年指揮者生活60周年を迎えた。

Born in 1941, Kazuyoshi Akiyama studied conducting under Hideo Saito at the Toho Gakuen School of Music. Akiyama has held prestigious posts such as Music Director of the American Symphony Orchestra and the Vancouver Symphony Orchestra, Syracuse Symphony Orchestra, Tokyo Symphony Orchestra. During this time, Akiyama's reputation spread to Europe and throughout North America.

He is the recipient of numerous highly prestigious honors in Japan including the Person of Cultural Merit (2014) for his outstanding cultural contributions.

Akiyama currently holds the title of Conductor Laureate of the Tokyo Symphony Orchestra, Music Advisor to the Japan Century Orchestra, Music Advisor to the Okayama Philharmonic Orchestra and Music Director/Principal Conductor of the Chubu Philharmonic Orchestra and others.



©松本学

TAKEZAWA Kyoko

Violin

竹澤恭子
[ヴァイオリン]

桐朋女子高校音楽科在学中に第51回日本音楽コンクール第1位。1986年インディアナポリス国際ヴァイオリン・コンクールで圧倒的な優勝を飾る。

これまで、ニューヨーク・フィル、ボストン響、ロンドン響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ロイヤル・コンサートヘボウ管等と、また、マズア、メータ、デュトワ、小澤征爾他、多くの名指揮者とも世界の檜舞台で共演している。2014年には東京フィル100周年記念ワールドツアーのソリストを務めた。2018年シーズンはデビュー30周年を迎え、各地でリサイタルツアーを成功させた。

近年は水戸室内管弦楽団、セイジ・オザワ松本フェスティバルへも参加。しいきアルゲリッチハウス レジデント・アーティスト。使用楽器は、1724年製アントニオ・ストラディヴァリウス。

現在、東京音楽大学教授、桐朋学園大学特任教授。

After winning the International Violin Competition of Indianapolis, Kyoko Takezawa has performed in the world's major venues with orchestras such as the Boston Symphony, Concertgebouw Amsterdam, under Seiji Ozawa and Zubin Mehta.

As a highly accomplished chamber music performer, she was co-director of the Suntory Festival Soloists and is a regular guest at many music festivals around the world.

She has recorded numerous CDs by Sony Music and BMG's RCA Victor Red Seal.

As an educator she is teaching at Toho Gakuen School of Music and Tokyo College of Music and served as a jury at the major international violin competitions. She plays Antonio Stradivarius made in 1724.

9/21 SAT.

アルバン・ベルク (1885 ~ 1935)

ヴァイオリン協奏曲「ある天使の思い出に」

ウィーンで活躍した音楽家は計り知れないが、ウィーンの出身者となれば、思いのほか少ないものだ。アルバン・ベルクは生粋のウィーン人で、師アルノルト・シェーンベルクや盟友アントン・ヴェーベルンと共に、第20世紀音楽の礎を築いた作曲家のひとりである。

1935年1月、アメリカのヴァイオリニストのルイス・クラスナーから、ベルクは協奏曲の委嘱を受けた。当時、1929年から開始した歌劇《ルル》の創作が佳境に入っていたこともあり、受諾はしたものの、ベルクは新作の方針に心砕いたと言われている。ところで、ベルク夫妻と、マーラーの妻アルマと娘マノンの間には、かねてから親交があった（すでにマーラーは没し、アルマは再婚していた）。子供がいなかったベルクは、ことのほかマノン可愛がっていた。しかし、彼女は、委託を受けた年の4月に19歳（18歳とも）で夭逝する。その悲しみに突き動かされたベルクは、弔いの意味を込め、ヴァイオリン協奏曲を8月までに完成させることになる。当然、表題の「天使」は当然、マノンと捉えることが通説だが、近年においては、彼女だけに捧げた作品ではないとする解釈もある。

すでに12音技法を導入し、《ルル》では全面的にそれを展開していたベルクは、ヴァイオリン協奏曲でも同じ手法を採用することになる。協奏曲は2部構成。たとえば第2部のアダージョ部分では、J.S.バッハのカンタータ《おお永遠よ、汝震撼させる言葉よ》BWV60のコラール〈充分です、主よ、汝の御心に叶うのならば〉が引用されることでも知られている。また、他の部分では、ケルテン地方の民謡の引用なども見られる。

初演は作曲者の死後、1936年の4月のバルセロナの音楽祭で、委嘱者の独奏、ヘルマン・シェルシェンの指揮（当初はヴェーベルンの予定であった）で行われた。作曲を終えてほどなくして、ベルクは悪性の腫瘍に苦しむようになり、《ルル》の完成を待たずに、クリスマス・イヴにこの世を去ってしまう。そのため、作曲者が新作の初演を聴くことは叶わなかった。

【譜例】ヴァイオリン協奏曲の基礎音列



今野 哲也 Text by KONNO Tetsuya

作曲：1935年

初演：1936年4月バルセロナにて、ヘルマン・シェルシェン指揮

編成：独奏ヴァイオリン、フルート2（ピッコロ持替1）、オーボエ2（イングリッシュホルン持替1）、クラリネット2、バスクラリネット1、アルトサクソフォン1（クラリネット持替1）、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、パストロンボーン1、バスチューバ1、ティンパニ、大太鼓、小太鼓、シンバル、タムタム、ゴング、トライアングル、ハーブ、弦5部

アントン・ブルックナー (1824~1896)

交響曲 第4番 変ホ長調「ロマンティック」 WAB104

(1878/80年稿ノーヴァク版)

ブルックナーは、習作のヘ短調、「第0番」と呼ばれる二短調、未完に終わった第9番を含めると、全11作品の交響曲を作曲している。第4番は彼が長調で作曲した初めての作品であり、「ロマンティック」という標題の親しみやすさからも、彼の交響曲の中でも存命中から人気があり、今なお演奏される機会が多い作品のひとつである。ブルックナーが自身の交響曲を繰り返し改訂していたことはよく知られているが、第4番に関しては特に複雑で、さまざまなヴァージョンが残されている。それらは大きく分けて初稿(1874年稿)・第2稿(1878 / 1880年稿)・第3稿(1888年稿)に分かれる。彼は各稿において、何を目指し、どのような音楽を生み出したのだろうか。

第4番は第3番の初稿を書き上げたあと、1874年の1月2日に作曲に着手され、11月22日の20時30分に全楽章が完成された。初期の交響曲に顕著に見られるように、この初稿においては、オルガニストとして培った感性から、オルガンのストップを変えるように、曲の節目ごとに休止をはさんだり(ブルックナー休止とも呼ばれる)、保続音やオクターヴの重複によって音の厚みをもたらしたりする手法が用いられている。こうした特徴はブルックナーらしさを物語るものである一方で、冗長さをもたらすものとして批判的にもなった。

その後ブルックナーは、これまでに書いた交響曲の改訂に集中的に取り組み始め、第4番は1878年に着手されている。まず第1、第2、第4楽章に手を入れ、スケルツォ(第3楽章)を変ホ長調の3/4拍子から、変ロ長調の2/4拍子とし、狩りの情景を描くスケルツォとして、新たに作曲された。さらにフィナーレ(第4楽章)について再び修正が重ねられ、当初「民衆の祭り」を想定していた導入部分なども、新たに書き直された。そのほかにも、冗長と言われることを避けるべく、休止や繰り返しをカットし、彼が好んでいた5連符のリズムも、演奏のしやすさに配慮して2+3連符(ブルックナー・リズムと呼ばれる)に変更された。さらに細かい書法の変更を経て完成したこの稿はいわゆる決定稿と見なされており、のちにブルックナー全集が編纂された際に「原典版」として出版された。この原典版はハースによって校訂された版(旧全集)と、のちに発見された資料も反映されたノーヴァク版(新全集)とが存在する。この第2稿においては、様式的に洗練させて、演奏会で取り上げやすい作品に仕上げようとする努力が見てとれる。

このような努力にもかかわらず、ブルックナーの交響曲の書法はあまりに独特なもので、当時の聴衆にとっては魅力に欠けたようだ。それゆえ、弟子たちの手によって当時の

9/21 SAT.

聴衆の好みに合わせて書き換えられることがよくあった。第4番に関しても同様で、建前上はブルックナーの了承のもとに、レーヴェによって改訂がなされた。この第3稿はレーヴェ版と呼ばれ、いちばん最初に出版されたのも、このレーヴェ版であった。ブルックナーの特徴を損ねるような「ワーグナー風の化粧」をほどこしたことで、ブルックナーがこの稿に、自身の作曲の証明としての署名を残さなかったことから、レーヴェ版については作曲家の意図に添わないとして批判の声も挙がっている。だが、先述の初稿・第2稿が出版されるまではこの版が唯一流通していた楽譜だったのであり、作品の普及に貢献し、絶大な人気を支えたのもレーヴェ版であった。

最後に、この作品の標題性について触れておきたい。ブルックナーは、同時代の他の作曲家とは異なり、十分な教養のある人物としては珍しいことに、文学的素養を持たなかったといわれている。ロマン主義的な風潮の中で、ブルックナーが標題についてもいくばくかの配慮をしたことは確かだが、そこに描写性を求めると徒勞に終わることになるかもしれない。狩りの象徴として用いられることの多いホルンが活躍する本作品は、ドイツの深い森の情景と結びつけて想像豊かにめぐることもできれば、いわゆる絶対音楽として、冒頭で提示される5度の音型が作品全体を内的に統一する構造の立体感を味わうこともまた醍醐味であろう。おそらくブルックナー自身は意図せずになしえたことであろうが、19世紀に盛んに議論された「標題音楽」対「絶対音楽」という二項対立を、本作品においていともたやすく超越していることには、あらためて驚かされる。

第1楽章 動きを持って、速すぎず 変ホ長調 2/2拍子 ソナタ形式

第2楽章 アンダンテ・クワジ・アレグレット ハ短調 4/4拍子 ロンド形式

第3楽章 スケルツォ 変ロ長調 2/4拍子 トリオ 変ト長調 3/4拍子

第4楽章 動きをもって、しかし速すぎず 変ホ長調 2/2拍子

成田麗奈 Text by NARUTA Reina

作曲：1874年(1874年稿)、1878年(第1～3楽章の改訂など・1878年稿)、1879～1880年(第4楽章の改訂・1880年稿)、1888～89年(初版に向けた改訂・1888年稿)

初演：1874年稿：【スケルツォのみ】1909年12月12日ウィーン、アウグスト・ゲレリヒ指揮

【全曲】1975年9月20日リンツ、クルト・ヴェス指揮

1878+1880年稿：1881年2月20日ウィーン、ハンス・リヒター指揮

編成：フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ、弦5部

9/28 SAT.

東京オペラシティシリーズ 第141回

2024年9月28日(土) 14:00 東京オペラシティコンサートホール

Tokyo Opera City Series No.141

Sat. 28th. September 2024, 14:00 Tokyo Opera City Concert Hall

トンチエ・ツァン [指揮]
 ティモシー・リダウト [ヴィオラ]
 田尻 順 [コンサートマスター]

Tung-Chieh CHUANG, Conductor
 Timothy RIDOUT, Viola
 TAJIRI Jun, Concertmaster

J.S.バッハ/マラー編:管弦楽組曲
 第3番より「アリア」(6')

J.S.BACH Arr. by MAHLER :
 Orchestral Suite No.3 in D major,
 "Air" BWV1068(6')

ウォルトン:ヴィオラ協奏曲(30')

I.アンダンテ・コモド
 II.ヴィーヴォ〜コン・モルト・プレチーソ
 III.アレグロ・モデラート

W.T.Walton: Viola Concerto(30')

I. Andante comodo
 II. Vivo, con molto preciso
 III. Allegro moderato

休憩(20')

Intermission(20')

ブラームス:交響曲 第1番 ハ短調
 op. 68(50')

I.ウン・ポーコ・ソステヌート - アレグロ
 II.アンダンテ・ソステヌート
 III.ウン・ポーコ・アレグレット・エ・グラツィオーソ
 IV.アダージョ - ピウ・アンダンテ
 -アレグロ・ノン・トロツポ、マ・コン・プリオ

J.BRAHMS: Symphony No.1 in C minor
 op.68(50')

I. Un poco sostenuto - Allegro
 II. Andante sostenuto
 III. Un poco allegretto e grazioso
 IV. Adagio-Piu Andante
 -Allegro non troppo, ma con brio

●主催/公益財団法人東京交響楽団

●助成/文化庁文化芸術振興費補助金舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)|独立行政法人日本芸術文化振興会

楽曲解説はP.18をご覧ください



Tokyo Symphony Orchestra

9/28 SAT.



©Harald Hoffmann

Tung-Chieh CHUANG

Conductor

トンチエ・ツァン
[指揮]

トンチエ・ツァンは21/22シーズン以来、ドイツのボーフム交響楽団の音楽監督を務めている。23/24シーズンにはフランクフルト放送響、アントワープ響、ノルウェー放送響、ルツェルン響、ブレーメン・フィルなどに客演する。これまでにベルリン・ドイツ響、MDR響、SWR響、NDRフィル、ドレスデン・フィル、ドイツ・カンマー・フィル、デンマーク放送響、ヘルシンキ・フィル、オスロ・フィル、BBC響、ロイヤル・スコティッシュ管などに客演している。2015年にコペンハーゲンで行われたマルコ国際指揮者コンクールで優勝。ショルティ指揮者コンクールで聴衆賞、マーラー指揮者コンクールでも入賞している。

これまでにバンベルク響、MDR響、ドイツ・カンマー・フィル、タンペレ・フィル、カタール・フィルなどに客演している。

台湾出身。幼少期から優れた音楽の才能を見出され、ホルンとピアノを学び、11歳で初めて舞台に立った。これまでにフィラデルフィアのカーチス音楽院、ワイマール音楽大学で学んだ。

Since 2021/2022 season Tung-Chieh Chuang has been Generalmusikdirektor of the Bochumer Symphoniker and Intendant of the Anneliese Brost Musikforum Ruhr.

In the 2023/2024 season, He has received invitations to conduct the hrSinfonieorchester, Antwerp Symphony Orchestra, and Norwegian Radio Orchestra., Luzerner Sinfonieorchester and the Bremer Philharmoniker.

Previous engagements have taken him to the Deutsches Symphonie-Orchester Berlin, WDR Sinfonieorchester, SWR Symphonieorchester, NDR Radiophilharmonie, MDR Sinfonieorchester, Dresdner Philharmonie, Die Deutsche Kammerphilharmonie Bremen, Danish National Symphony Orchestra, Helsinki Philharmonic Orchestra, Oslo Philharmonic, BBC Symphony Orchestra, Royal Scottish National Orchestra, among others.

This young conductor from Taiwan laid the foundation for his international career in 2015 by winning the International Malko Competition in Copenhagen. Before that, he had already won prizes at the Sir Georg Solti International Conducting Competition, the Gustav Mahler Conducting Competition.

Born into a family of professional musicians, Chuang learned to play the horn and the piano from an early age. He continued his studies at the Curtis Institute of Music in Philadelphia and the Hochschule für Musik "Franz Liszt" Weimar.



Timothy RIDOUT

Viola

ティモシー・リダウト
[ヴィオラ]

ロンドンの王立音楽院を首席で卒業後、 Kronberg アカデミーにて今井信子の下で更に研鑽を積む。2016年、英国人として初めてライオネル・ターティス国際ヴィオラ・コンクールで優勝。2019年BBC ニュー・ジェネレーション・アーティストに選出。ハンブルク交響楽団を皮切りに、チューリヒ・トーンハレ管弦楽団、バーデン＝バーデン・フィル(レジデント・アーティストに任命)等、ヨーロッパ各地のオーケストラと共演。ルツェルン、ロッケンハウス、ザルツブルグ等、数々の音楽祭に招かれ、BBCプロムズにも定期的に出演。ウイグモア・ホールは2017年3月のデビュー以降出演を重ね、2024年シーズンにはレジデント・アーティストに任命。同ホールにてキュレーターとして5公演のシリーズを受け持ち、その中の無伴奏プログラムは本年10月に王子ホールでも披露する。

楽器は、ベアーズ国際ヴァイオリン協会より貸与されたペレグリーノ・ディーザネット製(1565-75年頃)。

<https://www.timothyridout.com/>

Born in London in 1995, Ridout studied at the Royal Academy of Music, graduating with the Queen's Commendation for Excellence. He completed his Masters at the Kronberg Academy with Nobuko Imai in 2019. The first British violist to win the Lionel Tertis International Viola Competition in 2016, he became a BBC New Generation Artist in 2019. Ridout is in constant demand with orchestras such as Hamburger Symphoniker, Camerata Salzburg, Philharmonia Orchestra Zurich Concertgebouw only to mention a few. In 2021 he performed the Walton Concerto at the BBC Proms with Sakari, Oramo (BBC Symphony Orchestra) regularly in the BBC PROMS Ever since his debut at Wigmore Hall in 2017 he has been a frequent performer thus in 2023 he curated a series of five recitals to epitomize the viola and its repertoire. He continues to take part in numerous festivals across Europe, including , Lucerne , Lockenhaus, Salzburg amongst others. He plays on a viola by Peregrino di Zanetto c.1565 – 75 on loan from Beare's International Violin Society.

9/28 SAT.

J.S.バッハ(1685～1750) / グスタフ・マーラー(1860～1911)

管弦楽組曲 第3番より「アリア」

生前は作曲家というよりも指揮者として評価されていたグスタフ・マーラーは、過去の作品を演奏する際に度々、楽譜へ手を入れていたことで知られる。東京交響楽団がグベール・スダーン指揮で録音したシューマンの交響曲第1～4番もそのひとつだ。これらはベートーヴェンの「第九」に、ワーグナーが管弦楽法(オーケストレーション)の変更を加えた伝統を引き継いだもの。マーラーは初めて「第九」を指揮した時にワーグナーの解釈をもとにしていたが、後に彼独自の変更を加えた楽譜で演奏するようになった。時代が進んだことで楽器の機能性が高まったことを受け、楽譜に手をいれて大編成でも主旋律が聴こえやすくなるように工夫したのだ。シューマンの交響曲も同様であった。一方、J.S.バッハの編曲は少し歴史的な文脈が異なる。シューマンがバッハの無伴奏作品にピアノ伴奏を付けて、原曲にはなかった新たなメロディやハーモニーを書き足している例に近いのだ。

1909年2月、メトロポリタン歌劇場との契約打ち切りを発表したマーラーは、ニューヨーク・フィルの音楽監督への就任を発表した。新シーズン・プログラムとして「歴史的ツィクルスのコンサート Concert of the Historical Cycle」という全6回のシリーズをマーラーは考案し、第1回ではバロック音楽を特集。バッハは4つの管弦楽組曲を遺しているが、マーラーはそのうち第2番から3曲、第3番から2曲、計5曲を抜粋して新たな組み合わせをつくり、公演の1曲目にプログラミングしたのだ。

マーラーの編曲した楽譜にはオーケストレーションの大きな変更はなされていないが、必要に応じてフルートをクラリネットで補強するように指示されていたり、序曲だけにはオルガンの通奏低音まで楽譜に書き加えられたりしていた。最も特徴的なのは、初演でマーラー自身が——チェンバロ風の音が出るように改造されたスタインウェイによって——弾いた通奏低音のパートが楽譜に書き下ろされており、原曲にない旋律が書き足されている点だ。ただし今回演奏される「アリア」については通奏低音が書かれていない。原曲との最大の違いは、チェロとコントラバスがフレーズの終わりを除き、アルコ(弓弾き)ではなくピツィカートに変更されていること。そして、他の曲と同様にこのように弾いてほしいというマーラーの演奏解釈が事細かに書き込まれている。

小室敬幸 Text by KOMURO Takayuki

作曲: 1909年

初演: 1909年11月10日、ニューヨークのカーネギーホールにて

編成: 弦5部

ウィリアム・ウォルトン(1902~1983)

ヴィオラ協奏曲

オックスフォード聖歌隊学校に所属していた少年時代のウィリアム・ウォルトンは、声変わりしても経済的に余裕のない実家に送り返されないよう、自分をインタレストーピングな存在であると示すために作曲をはじめたという。その才能はすぐに見出され、14歳でオックスフォード大学に入学。2年後の1918年に作曲したピアノ四重奏曲を、ウォルトンより5歳年上の大学生サシェヴァレル・シットウェルが聴いたことがきっかけとなり、大学を中退。ロンドンでシットウェル三姉弟と暮らしながら、作曲に集中するようになった。そうして生まれたのが長姉エディス・シットウェルの詩の朗読に音楽を付けた「ファサード」で、1923年に初演されるとウォルトンの出世作となった。また同年に国際現代音楽協会の音楽祭で紹介された弦楽四重奏曲は、アルバン・ベルクに高く評価されている。

こうして早熟の天才として注目を集めたウォルトンは、20代の後半に早くも代表作と目される作品を発表する。それがカンタータ『ベルシャザールの饗宴』(1931)と、このヴィオラ協奏曲(1928~29)だ。指揮者トーマス・ビーチャムから提案で、ソリストとしても活躍するヴィオラ奏者のパイオニア ライオネル・ターティスのために協奏曲を書き下ろすことに。ところがターティスが作品を理解できず演奏を拒否したため、作曲家でヴィオラ奏者としても優秀だったヒンデミットが初演を務めた。

全楽章がソナタ形式に基づいている3楽章構成で、各楽章の主題は関連付けられている。だが伝統的な急一緩一急ではなく、おそらくプロコフィエフのヴァイオリン協奏曲第1番がモデルだ。第1楽章は随所で短調と長調の響きを混在させることで、抒情的だが甘すぎない独特の雰囲気を生み出す。第2楽章はスケルツォで、ストラヴィンスキー風の新古典主義に接近。第3楽章は主題が対位的に展開されるが、強く耳に残るのはプロコフィエフ風の叙情だ。最終的に第1楽章の主題が回帰して、この楽章の主題と重ね合わされる。

1961年に管楽器の数を減らし、ハープを加えて、ヴィオラ独奏がよく聴こえるような改訂が加えられている。現在は改訂版が演奏されるのが一般的だ。

小室敬幸 Text by KOMURO Takayuki

作曲: 1928~29年 / 1961年改訂

初演: 【初稿】1929年10月3日ロンドン、ヘンリー・ウッド指揮、パウル・ヒンデミットの独奏

【改訂稿】1962年1月18日ロンドン、サー・マルコム・サージェント指揮、ジョン・クローリングの独奏

編成: ヴィオラ独奏、フルート2(ピッコロ持替1)、オーボエ2(イングリッシュホルン持替1)、クラリネット2(バスクラリネット持替1)、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、ハープ、弦5部

9/28 SAT.

ヨハネス・ブラームス(1833～1897)

交響曲 第1番 ハ短調 op.68

シューマンの批評によって音楽界にデビューしたブラームスにとって、交響曲の創作は大きな意味を担っていた。3曲のピアノ・ソナタを出版したのち、ブラームスは2台のピアノのためのソナタを作曲し、これを交響曲に改作する構想をもつ。だが、この交響曲の構想は「失敗」と認めざるを得ず、最終的に彼はこれを《ピアノ協奏曲 第1番》(作品15)に改作することになる。

さらに1855年、彼は新たにハ短調の交響曲創作の構想を持ち、1862年6月に友人のディートリヒにその草稿を見せる。この「ハ短調の交響曲」こそ、20年以上も後に完成する《交響曲 第1番》の萌芽である。この年、ブラームスはこの第1楽章をクララ・シューマンの前でピアノを弾いて聞かせている。クララはヴァイオリニストのヨアヒム宛の手紙でその時の印象をしたため、冒頭の部分を書き記した。その譜例には完成作品における壮大な序奏部分はなく、フォルテでハ音が鳴らされた後、現在のアレグロの部分から始まっている。

その後、この作品の創作は中断するが、そのなかで1869年9月にブラームスはクララに誕生日のお祝いのカードを送る。ここに添えられたアルペンホルンの旋律が、後に第4楽章の序奏に取り入れられることとなる。《交響曲 第1番》の作曲が本格化するのは1876年に入ってからで、彼は短い期間に作品全体を仕上げた。第1楽章に壮大な序奏が付けられたのは作曲の最後の段階と見られ、この序奏と対をなす形で第4楽章にも序奏が付された。中間の2つの楽章は管楽器と弦楽器の掛け合いを特徴としている。作品は1876年11月4日、デッソフ指揮によりドイツのカールスルーエで初演され、その後各地で再演された。彼はこれらの演奏を踏まえて作品の改訂を行い、最終的な出版譜を仕上げた。

第1楽章 ウン・ポーコ・ソステヌート - アレグロ

第2楽章 アンダンテ・ソステヌート

第3楽章 ウン・ポーコ・アレグレット・エ・グラツィオーソ

第4楽章 アダージョ - ピウ・アンダンテ - アレグロ・ノン・トロppo、マ・コン・ブリオ

西原 稔 Text by NISHIHARA Minoru

作曲：1855年構想、1862年、1868年、1874～1876年

初演：1876年11月4日カールスルーエ、フェリックス・オットー・デッソフ指揮

編成：フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦5部

音楽監督ジョナサン・ノットが語る
東京交響楽団

2024/25年 シーズン 後半戦

取材・文 後藤菜穂子 (音楽ライター)

©T.Taradate

今シーズン前期は、マーラーの《大地の歌》やブルックナーの交響曲7番、ベルリオーズの《イタリアのハロルド》などの大作に取り組んできた音楽監督ジョナサン・ノットだが、後期のプログラムも、ベートーヴェンの《運命》から日本初演のジャレルのクラリネット協奏曲、そしてシーズン・ハイライトのオペラ《ばらの騎士》まで、意欲的な演目が並ぶ。

シーズン前に監督に話をうかがったとき、今季の目標のひとつとして「オーケストラの色彩のパレットを増やすこと」を挙げ、そのためにフランス音楽を多く取り上げたいと語っていたが、まさにその視点からプログラミングされているのがラヴェルの《スペイン狂詩曲》とデュリュフレの《レクイエム》の入った11月の定期演奏会だ。《レクイエム》はノット自身が学生時代に歌った曲で、演奏するたびにタイムスリップさせてくれると懐かしむ。

これらのフランス作品のあいだにスイスの作曲家ミカエル・ジャレルのクラリネッ

ト協奏曲「Passages」がはさまれる。共同委嘱したスイス・ロマン管によって昨年10月4日に世界初演されたものだが(その音源はYouTubeに上がっている)、そもそもジャレルと独奏のマルティン・フレストの縁を結んだのはノットなのだそう。

スウェーデン出身の気鋭のフレストは、クラリネット界に新境地を開いてきたアーティストで、多くの作曲家に新作を委嘱し、レパートリーを拡げてきた。曲についてノットは「ジュネーヴ初演のあと、作曲家がいくつか手直したい点があると言っていたので、東京ではさらにヴァージョンアップした演奏が聴けるはず。ぜひみなさんに自分の時代の音楽に耳を傾けてほしい」と意気込む。

一方、11月のオペラシティシリーズで、ハイドンとモーツァルトの協奏曲の前にリゲティの鮮烈なオルガン独奏曲《ヴォルミナ》(大木麻理)を置くのもノット流。ハイドンでは当団のソロ首席奏者、伊藤文嗣の起用が楽しみだ。

音楽監督ジョナサン・ノットが語る 東京交響楽団2024/25年シーズン 後半戦

つづく12月の定期演奏会のプログラムはそれぞれの世代の「革新」に光を当てたプログラムといえようか。昨シーズンの「田園」に続き、ベートーヴェンの「運命」を取り上げることについては、「歳を重ねるとこうした曲はまったく違って見えてくるので、どんな演奏になるのか楽しみ」と話す。一方シェーンベルクはノットが意識的に取り上げてきた作曲家で、10年前に東京交響楽団と最初に共演したのもピアノ協奏曲であったが、意外にもヴァイオリン協奏曲を指揮するのは今回が初めてだという。ソリストは初来日のアヴァ・バハリ。スウェーデンのイエーテボリ出身、ベルリンのブラッハーのもとで研鑽を積み、筆者が取材したカール・ニールセン国際ヴァイオリン・コンクールでも知的で澆刺とした演奏を聴かせていた。特に20世紀のレパートリーを好み、シェーンベルクは彼女がもっとも得意とする曲のひとつで（彼女自身のHPに、昨年イエーテボリ響と共演した同曲の動画がアップされている）、切れ味鋭くオーケストラとわたり合ってくれそうだ。

そしてノット監督のシュトラウスのコンサート・オペラ・シリーズが、第3弾《ばらの騎士》でいよいよ完結する。《サロメ》、《エレクトラ》では巻き起こした興奮の渦とはまた違う、ノスタルジーに満ちた優美な音楽をノットはどう聴かせてくれるか、期待がふくらむ。彼は昨年12月にジュネーヴ大

劇場で同作を指揮しているが、きっとさらに解釈が深化しているにちがいない。

元帥夫人役はスウェーデン出身、英国在住のリリック・ソプラノのミア・パーシオン。筆者はロイヤル・オペラやグランドボーンで彼女の歌うモーツァルトやブリテンなどを観ているが、歌も演技も自然体で気品のある歌手だ。東響では、2018年の《フィガロの結婚》の伯爵夫人以来の登場となる。シュトラウスにレパートリーを広げたのは比較的最近で、英国ガーシントン・オペラで2018年に《カプリッチョ》のマドレーヌ、2021年に元帥夫人でロール・デビュー。オクタヴィアンは、スコットランド出身、ヨーロッパの舞台でオペラと歌曲の両方で活躍するメゾのカトリオーナ・モリソン。《ナクソス島のアリアドネ》の作曲家役や、最近では《ラインの黄金》のフリッカなどで好評を得る。さらにゾフィー役にはフランスの若手エルザ・ブノワ、オックスにはアルベルト・ペーゼンドルファー、ファーニナルにマルクス・アイヒェと第一線で活躍する歌手たちが揃う。

そして舞台監修にあたるのは今回もサー・トーマス・アレン。彼自身はいつも「自分は交通整理をしているだけ」と謙遜するが、自身もファーニナル役を演じてきて作品に精通しているので、ノットとともにコンサートホールの制約を感じさせない鮮やかなドラマを浮かび上がらせてくれることだろう。

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N.Ikegami

ご芳名 (敬称略)

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

*新会員の方です。ありがとうございました(8月28日現在、五十音順)。

法人会員

プラチナ会員

株式会社エイチ・アイ・エス
株式会社ドワンゴ

ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社イノアックコーポレーション
株式会社インサイド・アウト
環境ステーション株式会社
株式会社すかいらーくホールディングス
株式会社ティー ワイ リミテッド
株式会社日本財託
株式会社パソナグループ

ゴールド会員

株式会社青山メインランド
株式会社あ佳音
オリエンタル酵母工業株式会社
サントリーホールディングス株式会社
社会医療法人財団石心会
玉川学園・玉川大学
玉の肌石鹸株式会社
中外製薬株式会社
銚子屋油槽船株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーションパートナーズ
西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
ヒノキ新薬株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社
*税理士法人渡邊芳樹事務所

シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
松竹株式会社
月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
司法書士法人村田事務所

ブロンズ会員

アーティス ホールディングス株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
酒蔵駒八 別館
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
有限会社青史堂印刷
ニッシンエレクトロ口株式会社
富士フィルムビジネス
イノベーションジャパン株式会社神奈川支社
前山歯科医院
株式会社LALLヒューマンホールディングス

賛助企業

東海大学教養学部 芸術学科音楽学課程
政鬼運輸株式会社
山崎製パン株式会社

匿名2社

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N. Ikegami

<東京交響楽団サポート会員制度>

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。そのため不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

個人会員

フレンズ1

年額1万円
~29,999円

フレンズ3

年額3万円
~49,999円

フレンズ5

年額5万円
~99,999円

サークル10

年額10万円
~249,999円

サークル25

年額25万円
~499,999円

サークル50

年額50万円~

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけでなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ

年額10万円~

シルバー

年額30万円~

ゴールド

年額50万円~

ダイヤモンド

年額100万円~

プラチナ

年額1000万円~

会員特典

詳細はHP、
又はお電話でお問合せ下さい

	法人会員	サークル 会員	フレンズ会員		
			フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1
主催公演へご案内	○	○			
ゲネプロ見学会(年3回以上)	○	○	○	○	
リハーサル見学会(年3回以上)	○	○	○	○	○
ご芳名掲載	○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約 ^{*1}	○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内 ^{*2}	○	○	○	○	○

^{*1}一部対象外もございます。^{*2}東京交響楽団の主催公演およびミュージアムザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合:「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分^{a)}について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合:「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。^{a)}

^{a)}但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ TEL 044-520-1518

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部 E-mail supporters@tokyosymphony.com

Meet the Musicians

楽団員紹介

音楽の世界に導かれ、向き合い続けるヴァイオリニスト

立岡 百合恵

TATSUOKA Yurie

[第1ヴァイオリン奏者] 1995年2月入団

趣味: 広めの公園に行って、愛犬と遊ぶこと



©N.Ikegami

母が導いたヴァイオリンへの道

母はクラシック音楽への憧れが強く、常に音楽が流れている家庭でした。私の名前も、西洋の響きがあり、シューマンの三女「ユリエ」の名前に近いことから名づけられたものです。母は「子どもには自分ができなかったピアノを習わせたい」と考えていたようで、4歳のときに姉に続いてピアノを、折角なら姉妹で違う楽器をと、6歳でヴァイオリンを始めました。

中学校ではブラスバンド部でクラリネットを演奏するようになりました。合奏がとても楽しく、当時の反抗期も相まって、「ヴァイオリンをやめる!」と宣言。ですが、クラリネットでは納得できるような良い音が出なかったのです。ヴァイオリンをやめると言ったときの母のがっかりした顔も思い出し、数日で発言を撤回。これまで向き合ってきたヴァイオリンに戻ってきました。そこからは、オーケストラでアンサンブルをする、ということが目標の1つとなりました。

一度は諦めたドイツ留学

オーケストラ入団と同じくらい夢だったのがドイツ留学。「留学も、オーケストラ入団も、どちらも早い方が良い」と言われていたので、東響入団とともに一度は諦めた夢でしたが、大隅さん(元首席トランペット)が「諦めずに挑戦しろ!」と背中を押してくださって、アフィニス文化財団の海外研修員として1年間ベルリンに留学しました。

ドイツの生活で一番大きかったことは、「大切なもの」への感情に変化があったこと。長い冬を楽しむためのクリスマスマーケットや、待ちわびた春が訪れたときのお楽しみ、黄金色に輝く落ち葉が街に敷き詰められる秋、桜の開花予想ならぬ「ホワイトクリスマス予報」……。いままで文字でしか見なかった感情を実際に体感し、大切なことを沢山知り、足りなかった部分は勉強し直さなければと、ヴァイオリンに向き合いました。オーケストラ生活を長く続けていると、こういった時間を確保するのが難しいので、留学での1年間は自分の音楽と向き合うためだけにつかえた貴重な機会でした。

音楽家はよく「届ける側」と言われますが、むしろ私は「与えていただいている側」のように感じています。指揮者、ソリスト、同僚のみなさんはとても素晴らしく日々学びの連続で、お客様にも育てていただいている感覚。入団から年月を経て「これくらい出来なければいけない」というレベルは年々高くなり、大変なことも多いですが、これからもヴァイオリンと向き合い続けて「自分の内側からの音」を大切に作る気持ちを強く持ち続けたいと思います。



休みの日に、愛犬エルマーと公園に。

インタビュー: 事務局

NEWS & TOPICS

2026/27年シーズンより、 東京交響楽団 次期音楽監督に ロレンツォ・ヴィオッティが就任

1990年スイス・ローザンヌ出身、現在34歳のヴィオッティ氏は、オランダ国立歌劇場及びネーデルラントフィル管首席指揮者。すでにベルリン・フィル、ロイヤル・コンサートヘボウ管など世界屈指のオーケストラを定期的に指揮し、2024年は、ウィーン・フィルとのドイツ・スイス・スペインツアーを率いるなど、いまヨーロッパの名門オーケストラ、歌劇場から引く手あまたの存在です。今後の東京交響楽団にご期待ください。



退 団

2024年9月11日付

溝根伸吾 MIZONE Shingo
[ホルン奏者]

2020年に入団し、4年にわたり活躍いたしました。



2024年9月27日付

渡辺裕子 WATANABE Hiroko
[第2ヴァイオリン奏者]

1983年に入団し、再雇用を経て41年にわたり活躍いたしました。

2024年9月30日付

竹田詩織 TAKEDA Shiori
[第2ヴァイオリン奏者]

2012年に入団し、12年にわたり活躍いたしました。



2024年10月2日付

高野成之 TAKANO Shigeyuki
[フルート&ピッコロ奏者]

1988年に入団し、36年にわたり活躍いたしました。このたび定年を迎え、退団いたします。



NEXT PROGRAM

10/6 第139回 新潟定期演奏会
(日) 17:00 りゅーとびあ

新潟市民芸術文化会館コンサートホール

指揮: クシシュトフ・ウルバンスキ / ピアノ: 小林愛実

コネツソン: 輝く者—ピアノと管弦楽のための
ラヴェル: ピアノ協奏曲 ト長調
ムソルグスキー: 組曲「展覧会の絵」

S¥7,500 A¥6,000 B¥4,500 C¥3,000 D¥2,000



10/12 第725回 定期演奏会 13 川崎定期演奏会 第97回
(土) 18:00 サントリーホール (日) 14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

指揮: クシシュトフ・ウルバンスキ
ピアノ: デヤン・ラツィック

ラフマニノフ: ピアノ協奏曲 第2番
ショスタコーヴィチ: 交響曲 第6番

[10/12] S¥8,500 A¥6,500 B¥5,500 C¥4,500 P¥3,000

[10/13] S¥8,500 A¥6,500 B¥4,500 C¥3,500 P¥3,000



東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ

公式サイト <https://tokyosymphony.jp>



1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。サントリホール、ミュージア川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市、新潟市などの行政と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開。教育プログラム「こども定期演奏会」「0歳からのオーケストラ」も注目されている。また、新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。海外公演もウィーン楽友協会をはじめ59都市80公演を開催。2024年より、アジア全体の音楽文化の向上を図る「東京交響楽団アジア・プロジェクト」を展開している。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、音楽監督ジョナサン・ノットとともに、日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集めている。特に、2022年よりスタートした「R.シュトゥウス コンサートオペラシリーズ」は、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」において、第1弾《サロメ》(2022年)が第2位、第2弾《エレクトラ》(2023年)が第1位に選出されるなど各メディアで絶賛され、第3弾《ばらの騎士》にも期待の声寄せられている。

桂冠指揮者に秋山和慶、ユベール・スダーン、正指揮者に原田慶太楼、名誉客演指揮者に大友直人を擁する。



Jonathan Nott began his tenure as the 3rd Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra in 2014 season. The Tokyo Symphony Orchestra, together with music director Jonathan Nott, has been attracting attention as a leader in the Japanese orchestra world. Elektra in Concert Style(2023) won the 1st prize in the "Top 10 Concert 2023" following the 2nd prize of Salome in Concert Style(2022) on Ongaku no Tomo magazine as well as the Best Recording of Music Pen club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra's amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven filmed by 45 cameras, the largest record of the orchestra history live-streamed nationwide, Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO's home and Mozart's Da Ponte Operas in concert style. In March 2020, the live-streamed concert without audience on nico-nico Live Channel which attracted more than 200,000 viewers nationwide, has been a mega-hit in Japan.

Outside of Japan, the orchestra has performed 80 concerts in 59 cities since 1976. Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 as Toho Symphony Orchestra, and changed its name to Tokyo Symphony Orchestra in April 1951, and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera, and has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.

マエストロ・シート

【5組10名の小・中・
高校生無料ご招待】



NICO NICO
TOKYO SYMPHONY
ニコニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト
【TSO MUSIC & VIDEO
SUBSCRIPTION】
1か月550円(税込)



このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサル・デザインフォントを使用しております。

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA | NICHOLAS CONCERT BROUWER

Symphony

Symphony 2024年(令和6年)9月号 [非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764

<川崎オフィス> 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310

ミュージア川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネススクリエイ